



濟福寺の延命地藏菩薩。台座から光背までの高さは約6m(写真右)。町家が残る美しい町並み(同左上)。彦根市景観重要建造物の村岸家住宅(同左下)。



七曲がり

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 彦根市

- 歩行距離▶約1.5km
- 歩行時間▶約40分

彦根大仏と古い町家が連なる懐かしい風景

彦根の地場産業で伝統工芸品である彦根仏壇・発祥の地「七曲がり」は、今も仏壇の専門店が軒を連ねる職人の町である。この地域は、寛永年間(1624~44年)に彦根城の城下町が拡大されてできた町で、職人たちがこの地に定着して発展したといわれている。「七曲がり」は城下町と中山道の高宮宿をつなぐ道(彦根道)の一部で、城の警備面から芹川の近くで何度も折れ曲がり、なかなか目的地に着かないことからこう呼ばれるようになった。

この通りには仏壇店とともに古い家並みが残っていて、虫籠窓や袖壁など懐かしい意匠をもつ江戸時代後期の町家も見つけることができる。通りの路地に一歩入ると

今回の散策で「七曲がり」の屈曲部分を数えてみた。芹中町の仏壇街には城下町らしい鍵型道路が2か所ある。中芹橋南詰を過ぎて曲がり角が5か所、中芹橋を通る幹線道路との交差点もかつては屈折していたらしい。実際は7か所以上あったのかもしれない。



仏壇街の鍵型道路

板張や漆喰の壁の町家があり、まるで迷路を歩いている気分だ。その一画にある濟福寺は、木造としては日本最大級の彦根大仏を本尊とする黄檗宗の寺である。井伊家とゆかりが深く、十一代藩主直中の夢のお告げで寄進された安産地藏尊を、高さ約6mの延命

地蔵菩薩の胎内仏として祀っている。その霊験により地域の信仰を集め、安産、子宝の祈願に訪れる人が後を絶たない。最近では地元市民グループによって散策マップも作成され、さまざまなイベントが催されている。地図を片手に、のんびり散策してみるのがいいだろう。

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分ですべて歩いてみてはいかがでしょうか。



モデルコース

- 芹橋バス停 8分
 - 中芹橋南詰 10分
 - 濟福寺 5分
 - 七曲広場 5分
 - 村岸家住宅 8分
 - 近江鉄道彦根口駅
- ※移動時間はあくまでも目安です。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!
<http://www.keibun.co.jp>

